

自己評価報告書

平成31年3月

専修学校 徳島県美容学校

I 学校の現状

1. 学校名

専修学校徳島県美容学校

2. 所在地

徳島県徳島市佐古二番町3-5

3. 沿革

昭和30年 9月 私立各種学校徳島高等美容学校として認可
昭和30年10月 厚生大臣指定徳島県美容師養成施設として夜間課程、通信課程を創立
昭和33年12月 校舎移転
昭和34年 3月 養成所廃止
徳島県美容業環境衛生同業組合立徳島高等美容学校設立
昭和52年 6月 校舎移転
昭和57年 4月 昼間課程設立、夜間課程廃止
昭和61年 1月 校舎改装
平成10年 新制度に変更
平成12年 4月 専修学校に変更
平成22年 4月 新校舎設立

4. 学科の構成

衛生課程 美容科
衛生課程 美容ダブルライセンス科
衛生課程 別科 通信課程 美容科
衛生課程 別科 通信課程 美容ダブルライセンス科

5. 学生数及び教員の数

衛生課程 学生総数32名
衛生課程 別科 学生総数70名

II. 学校の理念、教育目標

教育理念

「笑顔と感謝の心」本校では、この言葉を重んじ、高い知識と技術のみならず、心ある人材を育成し、社会に貢献することを使命と考え、その基本姿勢を学則に記している。

(学則)

第1条 本校は教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、人格の完成と、平和的な国家及び社会の形成者として、勤労と責任を重んじ自主的精神に充ちたる心身共に健康なる生徒を育成することを旨し、社会人としての教養と、近代的な感覚と、専門的な知識と技術を修得せしめ特に美容技術の研究研磨並びに衛生知識の向上をはかるを目的とする。

教育目標

・美容の基本的知識及び技術はもちろんのこと、美容師として必要なエステ、ネイル、メイク、着付など幅広い技術を修学し、多様化するニーズに柔軟に対応できる技能を身につける。そして、いかなる時代であっても必要とされる「美容」という職業を通して、社会に貢献できる美容師を育成する。

・本校の教育理念に基づき、笑顔と感謝の心を忘れない、人として魅力ある人間性豊かな人材を育成する。

Ⅲ. 令和元年度の重点目標

目標

国家試験合格率向上

人間力のある人材の育成。挨拶やマナーの大切さを知るとともに、技術や知識の習得に積極的に取り組み、成長し続けることの大切さを実感させる。

計画（目標達成の為の具体的計画）

・担任、教科担任間の連携はもとより、上司、部下、教員、事務局間でも報告、連絡、相談を気軽にかつ密に行える環境を構築していく。その結果、個々がそれぞれの業務に責任を持ち、自身で考え発案する機会と意欲を向上させることにつながり、ひいては学校全体の活性化、学生の学習意欲の向上また、充実度、満足度の向上を図ることができる。学生の意欲向上は、最終的に国家試験合格へ繋がるものとなる。

・あいさつ運動を積極的に取り入れる。意外と忘れがちなあいさつの大切さを再確認するとともに、あいさつをきっかけに教職員と学生、また学生同士でコミュニケーションを持ち、お互いのことを思いやりながら、切磋琢磨し互いに成長していけるようにする。

IV. 評価項目別評価報告

(1) 教育理念・目標 適切…4, ほぼ適切…3, やや適切…2, 不適切…1

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	理念、目的ははっきりとしているが、それに伴う目標設定が曖昧な点がある。	社会のニーズに合った人材像を定期的に見直し、定める必要がある。	定期的に理念、目的を見直し、社会にあった人材育成ができるよう目標を定める。
・育成人材像は、専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	教育課程編成委員会や外部講師また美容組合の方々に、業界の求める人材像を聞き授業に取り入れている。	ニーズの移り変わりが早く、また多様化している為、技術知識共に専任教員だけでは追い付かない。ニーズ、流行に敏感な業界に情報開示し、協力を得られるようにしていく必要がある。	組合立の強みを生かし、業界との連携を図り授業に取り入れる。
・学校の理念・目的・育成人材像などが教職員に浸透しているか	3	教職員会議で理念、目的について話し合っている。	目的は明確であるが、学校全体を見た場合、理念・目的の共有という点でまだまだ不足がみられる。年度初めに改めて理念・目的を把握し、現状に応じた目標を定め教職員全体で把握しておく必要がある。また、その上で保護者・学生への周知を図る必要がある。	職員会議において、目標をはっきりと定め、教職員全体が把握しておく。
・学校の理念・目的・育成人材像などが学生や保護者に浸透しているか	3	目標については、パンフレットに明記している。	人物像についての目標は、パンフレットに記載してあるが、理念などには触れておらず情報の浸透が不足している。	学校説明会などを通じて、学校の理念や目標を説明し、保護者や学生に十分理解していただく。

(2) 学校運営

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・目的に沿った運営方針が策定され、それに沿った事業計画が策定されているか</p>	4	<p>事業計画は毎年作成しており、それに沿った予算計画も立てている。</p>	<p>運営方針と事業計画との連携もさることながら、毎年同じことの繰り返しではなく、変わっていくニーズに沿った目的を立て、それにあった事業計画をたてなければならない。</p>	<p>理念、目的、目標、ニーズなどすべての情報を把握し、事業計画、予算案を立てていく。</p>
<p>・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか</p>	3	<p>事務処理は、経理関連は事務局が処理。他の事務処理については、教員、事務員とで分散している。</p>	<p>処理の分散とデータの集約は必要。データが分散してしまうと、間違いのもとにもなるし、無駄な手間もかかる。</p>	<p>それぞれが仕事の分散と各担当する仕事の明確化。また、データの統合を進めていく。</p>
<p>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか</p>	4	<p>HPでの活動情報公開を行っている。</p>	<p>行事、イベントなどがあればHPでの公開をしているが、保護者、学生また高校生など、学校の様子をもっと知りたいという意見があれば、SNS等HP以外の方法も検討すべき。ただ、人材や時間、セキュリティ等々、情報の管理体制の課題もあり、難しい面もある。</p>	<p>現在でもHPでの公開を行っているが、HPに載せるのに業者を挟んでいるため、タイムラグが生まれる。今後、できるだけタイムラグをなくすことと、掲載にかかる手間を考え事務処理の効率化について比較検討する。</p>
<p>・情報システム化等による業務の効率化が図られているか</p>	3	<p>各個人でデータ作成を行っている。事務局においても、統一データを使っている場合と個別の場合がある。</p>	<p>統一管理システム等がない為、必要な書類、データは個々で分散して使っている。仕事の効率化、セキュリティの概念等からも、できるだけシステム化へ向けて考えなければならない。</p>	<p>統一管理システムの導入は、なかなか難しい面もある。今あるソフト、ハードでできる限りシステム化していくよう検討する。また、同時に業務の見直しを行い、教職員の負担軽減も図る。</p>

(3) 教育活動

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか</p>	4	<p>学校の理念に沿ったカリキュラムを編成している。</p>	<p>理念に沿ったカリキュラムを組むために、まず、目標を明確に定める必要がある。国家試験合格のみならず、人間力の向上という観点での目標をもう少しはっきりと定める必要がある。</p>	<p>学校での教育において、国家試験合格はもちろん大切だが、それ以上に大切な「心」の育成という理念をもっと浸透させ、その為の目標、そして教育課程の編成を行っていく。</p>
<p>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか</p>	3	<p>2年間という比較的短い年月で、国家試験、エステ、ネイル、メイク、着付および大会等に向けた練習をカリキュラムを組んで行っている。</p>	<p>大会だけでも、学生大会、若年者技術大会、技能五輪と予選等合わせるとかなりのボリュームである。 また、美容師として必要な国家試験以外の技術も学ぶため、2年間を通しての綿密なカリキュラム編成が必要である。またそれに合わせ達成度の評価が必要であるが、現在は学期ごとの評価となっている。学生の進歩具合や得手不得手を把握するためにも、もう少し短いスパンでの評価が必要となってくる。</p>	<p>実技に関しては、学期ごとの評価を月ごとに変更し、それを学生の目標とすることで、学生本人の意識を高め、やる気を出させる。そうすることで教員側も個々に対し不足している技術を見つけやすく、日々の指導に役立てることができる。 学科については、簡単な確認テストなどを取り入れ、学生の修得状況を確認しながら授業を進めていく。</p>
<p>・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか</p>	3	<p>年間計画を立てている。</p>	<p>大きな流れとして、教科ごとに年間計画を立てているが、より詳細のシラバスを作成し、細かな目標、そして細やかな指導に役立てる必要がある。</p>	<p>2ヵ年計画。年間計画。そして、教科ごとのシラバスを作成し、細かなカリキュラムを組む。それぞれの単元ごとに目標を立て、学生全員が修学目標を達成していけるような指導に役立てる。</p>

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか</p>	3	<p>教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの編成を行っている</p>	<p>業界団体である美容組合や美容所の方で編成した、教育課程編成委員会を設置し、カリキュラムの編成に役立っている。業界の意見、学校の意見、そして社会の流れなどの隔たりも否めない。改善、また取り入れていけるところとそうでないところの判断をしつつ、カリキュラムを編集していく必要がある。</p>	<p>多くの学生の就職先である美容所、業界の意見は貴重であり、全てを受け入れることはできないところもあるが、学校の理念や教育方法の中で、できうる限り必要とされる人材を育成していくため、有効なカリキュラムを編成していく。</p>
<p>・ 授業評価の実施・評価体制はあるか</p>	3	<p>授業評価のシステムがなく口頭での生徒や卒業生からの評価がある。</p>	<p>口頭で教員等に相談や評価をしてくれる卒業生、または学生がいるが、もっと全体の評価も必要。アンケートをとるなど学生の意見やまた授業効果などを知る方法を探る必要がある。また、それをもとに教職員で意見交換などを行い、授業の改善や提案を行っていくことが大切である。</p>	<p>卒業時や年度末にアンケートを行い学校や授業評価を行う。提出されたアンケートを反映させ次年度の授業内容改善を図り、授業目標や授業編成を行う。</p>
<p>・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか</p>	4	<p>単位認定や卒業判定は、学則に定められており、教員と校長との話し合いを経て、最終決定をしている</p>	<p>学科ごとの期末試験や、授業の出席率等により、成績評価や進級・卒業判定は明確にされている。出席日数不足の学生や、成績不振の学生には、別途補講を行い、それ補っているが、あまりに出席日数の多い学生はそれでは補いきれない場合もある。日数が不足する前に、出席率をあげるような支援が必要。</p>	<p>学生が出席日数不足で卒業できない事態に陥らないよう、こまめに連絡をしているが、さらにもう少し細かいスパンで成績評価を行い早め早めの個別対策を行っていく。担任や教科担当者だけではなく、学校全体で協力し、学生の出席率ならびに成績の向上を図る。</p>

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか</p>	3	<p>国家試験合格は、本校の目的であり、入学から卒業まで一貫して指導を行っている。また、エステ、ネイル、メイク、着付などSBSと呼ばれる認定資格は、1年2年と通じて勉強し、資格試験対策も含め、細やかな指導を行っている。</p>	<p>国家試験対策については、問題なくカリキュラムが立てられ、2年間を通じて勉強ができるようになってきている。しかしながら、特に学科については個々の理解度に大きな差がでており、直前になって苦戦する学生もいるため、もっと早い時点で苦手を克服できる工夫が必要になってくる。</p>	<p>各教科、少し早い段階で理解度チェックを行い、理解不足の学生には、その都度フォローを行い、理解不足をそのまま放っておかないようにする。学生側からも不明点がある場合には、教員に相談に来るよう癖付けを行う。</p>
<p>・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p>	4	<p>教員については、ベテラン教員、新人教員、外部講師と多彩な人材を確保している。</p>	<p>目標の達成に必要な人材は、十分そろっており申し分はない。また、毎年同じことの繰り返しでは学校全体が成長していない為、県内外の業界関係者に講師として来ていただくなど、外からの風も取り入れる工夫もしている。さらに、教員間での意見交換や授業方法の発案も積極的になされており、人材育成目標に十分対応可能である。 ただ、新しい感覚や昨今の社会情報、あるいは多少予想外ともとれる意外な発想なども時には必要な為、若い人材も積極的に取り入れることも大切となっている。</p>	<p>校内人材で言えば、新人の教員も入ってきて、うまく回りつつある。業界団体との連携もうまく兼ね合い、学生にも多彩な授業が行えている。今後、業界との連携や意見交換などを経て、必要な技術や知識を再確認し、それに合った講師の育成また、確保をしていく予定である。</p>

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・関連分野における業界等との連携に於いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか</p>	4	<p>昨年度は、新しく1名教員を増やした。外部講師も県内の美容師や県外の世界チャンピオンの方に来て頂くなど多彩なメンバーを確保している。</p>	<p>当校が、組合立ということもあり、業界関係との連携は申し分ない。教員確保については、新しく1名教員を増やした。もともと業界（美容所）に勤務していたこともあり、業界のことや必要な人材像についても詳しい。今後の人材育成手腕に期待。外部講師も県外の世界チャンピオンの方や全国で活躍されている講師の方など、多方面で活躍されているかも多く、優れた人材という点では十分である。</p>	<p>今後とも、業界との連携を十分にしながら、多彩な講師を確保していく。ただ、県外講師などは、特に日程調整が必要な上、気象状況などによっては、来県できなくなることも考えられる。その為、なるべく早い段階で依頼をかけるなど、十分な計画と連携が不可欠である。カリキュラムの編成の際には、多少の予定変更も視野に入れ余裕をもって立てていく。</p>
<p>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか</p>	4	<p>四国地区理容師美容師養成施設協議会主催の教職員研修や、業界団体の美容組合の行っている、TMモード普及講習会などに参加している。また、メイク術の講習などにも参加し、新しい技術を修得している。</p>	<p>美容に対する社会のニーズが広がっており、カット、パーマ、カラーのみの技術ではなくなっている。新しい技術もどんどん増え、また開発され技術の進歩は日進月歩である。その全てを修得することは不可能であるが、社会的にニーズの高い技術や将来学生が必要になりそうな技術は、積極的に講習会に参加し、修得すべきである。着付などの伝統ある技術と最新の技術のどちらも大切であるという考えのもと、学生にいかにかその技術を伝えるかという工夫もまた必要である。</p>	<p>四国地区理容師美容師養成施設協議会主催の教職員研修や、美容組合の講習会に積極的に参加。技術修得もさることながら、技術の伝え方まで参考に会得する。また、修得した技術や知識は、校内で他の教員にも伝達していく。様々な講習・講演に出ることで、ともすれば狭く固定化されがちな見分を広げることができる。教職員全員が常に成長し続けるという意識を忘れない。</p>

(4) 学修成果

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・就職率の向上が図られているか</p>	4	<p>求人については、副校長が中心となり取りまとめている。就職説明会も年に1回実施し、サロンと学生との直接説明、質問できる場を設けている。また、産学連携事業として、組合、学校での連携も図っている。</p>	<p>求人については、就職率100%となっている。国家試験合格が雇用条件となることもあり、就職活動と国家試験対策はどちらも全員合格となるよう進めていかなければならない。また、毎年早期に離職する学生もおり、サロンと学生との間でミスマッチが起こらないよう、就職指導の徹底が不可欠となってきている。離職した場合、多くの学生は学校または担任に報告に来てくれるが、学生からもサロンからも連絡がない場合もある。離職者または、離職先のサロンの意見は、今後の後輩たちの就職活動の際にも非常に重要な意見となる為、学生、サロン、学校との連携は、卒業後も必要である。</p>	<p>今後も就職説明会を開催し、学生とサロンとの直接の説明の場を設けていく。学校としても、サロン側が学生に期待すること、学生側がサロンに期待すること双方の意見を聞くよい機会であるので、意見をよく聞き、学校側からも学生にあるいはサロン側に要望または支援できることを探る。また、サロン側からの意見を参考に、人材育成像を改めて見直し、サロンと学生とのミスマッチをなるべくなくせるような育成を目指す。</p>
<p>・資格取得率の向上が図られているか</p>	4	<p>国家資格、また認定試験合格に向け、特別授業や夜間スクーリングなど行っている。入学から卒業までの間に、国家試験に合格するまでの技術を身に付けられるようカリキュラムを編成しているが、授業の欠席が目立ち、個々の実力に大きな開きがみられる。欠席の多い学生はもちろん技術も知識も合格には届かず、特別授業が必要な状況である。</p>	<p>通信生の練習不足が目立ち、夜間スクーリングが欠かせなくなっている。できるだけ、授業内で国家試験合格まで指導できるよう指導方法等を見直す必要がある。また、授業を休む学生が通信生には多く、指導ができないことが多い。サロン側にもご協力頂き、欠席がなくなるよう指導していかなければならない。昼間生でも授業の欠席が目立つ学生がおり、早い段階で手を打つ必要がある。夜間スクーリングとなると、教員の負担も増すことから、できるだけ昼間生2年間、通信生3年間の通常授業のみで国家試験合格まで技術を上げれるよう工夫が必要である。</p>	<p>通信生に関しては、働いているサロンに呼びかけ説明会を開催。国家試験合格が第一であることを伝え、授業を休むことのないようサロンにも支援して頂く。また、昼間生に関しても、遅刻、欠席することがないように、改めて学生に指導し、試験合格に必要な知識、技術をしっかり修得できるよう各教科担当教員とも連携をとりながらカリキュラムを進めていく。</p>

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・退学率の低減が図られているか</p>	<p>4</p>	<p>昼間生の退学率は、減ってきている。通信生の退学は毎年必ずある。退学理由として多いのは、勤務している美容所を退職する。また、美容師になるのをやめ、他の業種で働きたい。など、根本の「美容師になりたい。」という夢を諦める学生が多い。退学したいという学生とは、担任や校長と相談を繰り返し、できるだけ辞めずに続けられるよう学校全体で支援している。</p>	<p>入学して1年以内に「美容師になる」という目的を見失ってしまったり、人間関係や通信生ならば職場関係が原因で退学という選択をしてしまう学生がいる。授業料等金銭の問題の場合は、分割にするなどの措置を講じて退学という選択をしないで済むようにできるが、美容師を諦めてしまった学生には、なかなかもう一度「美容師になる」という夢を持たせることが難しい。個別面談を行い時には保護者も交えて行っている。また、本校は通信課程もあることから、昼間課程から通信課程へ編入する道もあることを提案したり、休学措置をとったりする場合もある。色々学生に合わせた対応をとって退学という選択をできるだけしないよう支援しているが、どうしても解決できず退学してしまう学生もおり、学生、保護者、学校、サロン間の連携とコミュニケーションの大切さを痛感する。</p>	<p>昼間生よりも、通信生の方が退学しやすい。また、連絡なしで学校へ来なくなる場合も多い。通信生の場合、月に1～2度の授業の為、1、2回休むと来なくなるケースが散見される。いずれにしろ、早い段階で本人と連絡をとり、場合によってはサロンオーナーや保護者と連携し、支援していく。昼間課程から通信課程への変更は可能な為、学生の状況や性格等々によっては、編入も視野に入れ相談をする。授業料等の金銭的問題の場合には、支払いが滞った時点で、本人と連絡をとり、金額が多額になる前に対策を立てる。</p>

(5) 学生支援

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・進路・就職に関する支援体制は整備されているか</p>	4	<p>進路、就職に際しては、当校が組合立のこともあり、柔軟に支援できている。産学連携事業も行っており、労働環境の整っているサロンへの就職を勧めるなど、就職指導もしやすい。</p>	<p>就職先に関して、最近ではインターネット等で県外就職先を見つけてくる学生が増えてきた。選択肢が広がる一方、労働環境の整っていないところもあるなど、早期離職の原因の一つにもなっている。学生と相談しながら、サロン情報も収集しどのような就職先なのか学校側でも調べる必要がある。</p>	<p>学生と密に相談しながら、就職指導を行う。先に就職している先輩からの情報はとても有益なので、卒業後も学生と連携をとり、情報の収集に励み現在の学生の就職支援に役立てる。サロン見学やアルバイトで働いてみるのもサロンを知る良い機会なので、積極的に取り入れてみる。</p>
<p>・学生相談に関する体制は整備されているか</p>	4	<p>クラスは担任制をとっており、何かある場合は即担任に相談できるようになっている。校長への相談も気軽に行えるようになっている。また、担任以外でも就職、求人情報は共有されている為、副校長や前担任にも相談しやすい環境となっている。</p>	<p>比較的相談がしやすい環境である。担任がいるため、誰に相談すればいいか迷うこともない。ただ、担任に任せっきりにするのではなく、悩みや問題を抱えている学生に対する相談、対応を必要に応じて、他の教員もできるようにしておく。</p>	<p>いつでも相談できる体制にあるが、おとなしい学生は、問題を抱えているにも関わらず相談してこない場合も考えられる。学生の所作に気を配りながら、できるだけ早く対応できるように日ごろからみんなに声をかけ相談しやすい雰囲気を作っておく。</p>
<p>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか</p>	3	<p>昼間生に対しては、日本学生支援機構の手続きもしている。また、学生支援機構を使って、授業料を支払う場合のみならず、分割を希望する場合は、できるだけ支払い可能な金額で分割に応じている。本来、入学時に必要な1年生時の授業料も入学後の分割払いを可能とし、柔軟に応じている。</p>	<p>ここ2～3年、一括支払いが難しいと相談に来られる方が増えている。日本学生支援機構で授業料を借りている学生も多くなり、分割支払い希望者が半数以上になっている。しかし、学生支援機構を借りていても支払いが滞ることがあるため、月に一度の振り込み日に合わせて声掛けをするなど、こちらからアプローチが必要である。分割と言えど、たまると大きな金額になってしまう。ついつい生活費等に使い込んでしまう学生もいる為、学生生活の相談も含め、支援が必要である。</p>	<p>支払いに対しては、分割の相談もその都度受け付ける。入学説明会の時や、入学時に校長・経理と話し合いをしてもらい、分割支払いの金額を決める。学生支援機構で借りている場合は、毎月の振込日に合わせ学生に声掛けをする。また、生活や授業料に見合った金額を借りているか、多すぎる金額を借りている学生とは、相談をしながら金額調整を行う。</p>

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・保護者と適切に連携しているか</p>	4	<p>学校を休みがち、授業料の支払いが遅れ気味など、何かあった時には速やかに保護者へ連絡がとれる体制になっている。また、保護者の方からの問い合わせにも随時対応しており、連携はとれている。</p>	<p>必要に応じて、保護者への連絡を行っているが、なかなか連絡が取れない場合もある。常日頃からの学校、学生、保護者間の連携を強化し、何かの時にはスムーズに相談、報告ができるようにしておく必要がある。 また、学校の方針等を入学説明会やその他相談がある時に理解して頂き、家庭内でのサポートをして頂く必要がある。</p>	<p>入学説明会や入学式に出席する保護者が増えているので、その機会に学校の理念や教育方針を説明し、理解して頂く。また、学校生活の中での学生の問題などは、できるだけ小さなうちに保護者にも連絡し、連携をとりながら学生を支えていく。</p>
<p>・卒業生への支援体制はあるか</p>	4	<p>卒業後、離職してしまい再就職先を探す場合などにも、学校へ相談に来れるようになっていく。また、組合立の為、再就職先も探しやすくなっている。何年か後に自立開業する場合も、相談に応じれるようになっており、融資の申し込みやその他開業支援、技術修得の為の講習申込など、何にでも対応できるようになっている。</p>	<p>卒業後の様々な相談について、いつでもサポートできる体制になっている。しかし、全員が学校へ相談に来るわけではないので、卒業時に、何かの時には学校へ気軽に相談に来るよう伝え、学校は卒業後も相談先の一つであることを認識させる。離職後の就職先案内などもできるので、できるだけ卒業後の活動状況が把握できるよう、連携は取っておく必要がある。また、早期離職をできるだけ無くす為、卒業生の話をよく聞くなど情報収集も怠らないようにすることが大切である。</p>	<p>卒業生の支援は、再就職、起業、従業員募集などなど様々な面で支援していく。また、仕事の状況など後輩に伝える機会が作れば、後輩たちの就職活動にも大いに役立ち、また、就職先との見解の相違なども減らすこともできる上、卒業生の活躍状況も把握できるので、就職説明会などそういう機会を設ける。</p>

(6) 教育環境

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p>	3	<p>法令に準じて建設している為、しっかりと適合している。月曜日は、通信生のスクーリングが入るため、空き教室はなくなるが、1クラ40名まで授業に入れる設計になっている為、授業に関しては問題はない。</p>	<p>倉庫が狭いため、ウィッグの在庫や着物の在庫が溢れがちになっている。図書スペースもあるので、年に1度のタイミングで入れ替えを行う必要がある。建設して9年目になるので、そろそろ空調設備等順次、修理・交換が必要になってくるものがあると思うので、経費等準備しておく必要がある。</p>	<p>教室・廊下・トイレなどは、毎夕学生が掃除をしている。また、事務所などある1階については、毎朝職員が掃除をしているが、行き渡っていないところもあるので、時々確認する。設備の劣化については、今後を予測し、予算計画を立てておく。教材等で足りなくなっているものはないか確認し、必要に応じて補充しておく。</p>
<p>・防災に対する体制は整備されているか</p>	4	<p>毎年防災訓練をしている。消防署の方に来ていただき、避難訓練や消火器の使い方を教えて頂いている。</p>	<p>もしもの時の連絡網、連絡の仕方等、現在は担任に任せている状況だが、学校で一括するかどうか、また、どのようにするのか今一度確認する。また、外部講師の方にも防災対策について理解して頂き、とっさの時にどのように行動するか情報の共有が必要。</p>	<p>本年も防災訓練を行う。連絡網、連絡方法については、教職員で話し合い、どのような方法を取れば一番確かなのか、また、普段の生活の中でも利用すべきか等踏まえて話し合う。</p>

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・学生募集活動は、適正に行われているか</p>	4	<p>高校に直接訪問し、進学指導の先生と話しをしたり、進学ガイダンスに参加するなど、適正な方法で募集を行っている。 また、オープンキャンパスも秋頃までは、毎月開催しており、積極的に当校へ足を運んでもらいどのようなことを学ぶのか体験してもらっている。 HPに情報を公開している。</p>	<p>高校訪問の時期が、早すぎても担当の先生が決まっていなかったり、新学期が始まったばかりで、生徒の進学先調査が行われていなかったりと話ができない。遅すぎるとオープンキャンパスに間に合わなかったり、また、学校行事の為不在だったりするので、時期をよく考え回らなければならない。 昨年からAO入試を開始した。昨今の進学傾向なのか、多くの志願者が集まった。エントリー用紙をオープンキャンパスで配布しているので、その際に本校のアドミッションポリシーなど、AO入試についての情報ははっきりと伝える必要がある。また、学生だけでなく、保護者や高校の先生にも情報を開示し、本校の求める人材や、AO入試の方法について理解して頂く必要がある。</p>	<p>本年も5月よりAOエントリー用紙を配布し、募集を開始する。志願者に対しては、本校が求める人材像について明確に伝えると共に、学校まわりやオープンキャンパスで高校の先生や保護者に向けた説明も行う。 進路ガイダンスには積極的に参加し、教育活動の情報提供を行う。 募集要項や必要とする人物像に教職員間でブレの無いよう情報の共有を行う。 HPでの情報公開もこまめに行う。HP以外の情報公開についても検討にいられてみる。</p>
<p>・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p>	3	<p>高校訪問時には、学生の学校生活や活動内容について説明している。また、オープンキャンパスに卒業生を招き、現在の活躍状況や技術を見せてもらっている。</p>	<p>学校生活また授業内容と学生の理解との間でギャップがないよう、学校の教育内容や行事、取得できる資格などの情報をできるだけ伝え、できる限り退学者を出さないように努めなければならない。</p>	<p>オープンキャンパスや高校訪問で、学校の教育方針や資格取得、大会や卒業後の就職先などの話をし、学生が自分の希望に沿える学校かどうかの判断ができるよう情報提供をする。</p>

(8) 財務

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p>	3	<p>昼間課程、通信課程ともに入学者数、定員充足率の推移は把握している。ここ何年か入学生の減少が続いていたが、今年に入学生の大幅増となり財政基盤の安定がみられる。</p>	<p>常に入学者数、定員充足率の把握をしておき、継続的な財務基盤安定に向け、入学生者数の確保及び退学率の軽減、それと経費の見直しが必要不可欠となっている。</p>	<p>本年度もオープンキャンパスの月一回の開催やAO入試、推薦入試を行い、入学生の安定的な人数確保に向け、全教職員が一丸となり高い意識をもって募集活動を行う。また、経費の見直しを行い削減できるところは行い、設備等についても耐久年数等把握し、できるだけ修理・買い替えの予測を立て、突発的な出費を控えられるようにする。</p>
<p>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p>	4	<p>前年度の実績や事業案を踏まえて、収支の見通しを立て、組合理事会及び総代会の承認を経て計画設定を行っている。</p>	<p>予算の進行管理を行い、予算と期末の実績を比較・分析し、改善などの適切な対応をしていくことが必要である。</p>	<p>理事会と総代会の承認を経て、予算・収支計画を立てる。予算については、毎年の繰り返しとせず、必ず財務分析を行い、どこに何が必要でどれくらいの予算が必要なのか考え適切な計画を立てる。</p>
<p>・財務情報公開の体制整備はできているか</p>	3	<p>理事会・総会において財務情報を示し開示している。</p>	<p>理事会・総会では開示しているが、HP等での開示をしていない為、情報公開を検討する必要がある。</p>	<p>財務情報（損益計算書・貸借対照表等）をHPで公開できるよう検討し、決定後は速やかに開示する。</p>

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
<p>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか</p>	4	<p>関係団体や認可行政機関への申請・届け出は滞りなく提出している。また学則等の諸規定については、社会情勢等を見据えながら、定期的に検討、変更を行っている。</p>	<p>法令の遵守はなされているが、教職員全体にその情報共有が行き届いていない点もある。全教職員が関係法令・設置基準等を把握した上で学校運営に携われるよう周知徹底を行う必要がある。</p>	<p>学校運営がどのような法令の元なされているか、また、その他諸規定についても、全教職員が内容を把握しておくことは、必須事項である。学校運営について提案・意見する時にも必ず頭に入れておかなければならない為、周知徹底を速やかに行う。</p>
<p>・個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか</p>	4	<p>個人情報の掲載された書類はカギのかかる書庫に毎日しまわれ管理している。パソコンについても、パスワードの設定を徹底し、管理している。</p>	<p>個人情報に関連した規定などの周知が学内でなされていない為、教職員会議等で周知し、個人情報の意識向上を図り、また、反対に過剰な反応がなされ業務に支障が出ないように、正しい知識を習得する必要がある。</p>	<p>すでに日常に溶け込んでしまっているSNS関連の情報については、遅れを取らないよう、情報収集にあたり、上手に活用する方法等を習得する。個人情報についての正しい知識を身に付ける為、規定などの周知を行う。</p>
<p>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか</p>	3	<p>自己評価を行い、学内で意見を出し合い、学校運営改善に役立っている。</p>	<p>自己評価を元に学校関係者評価で意見、改善案が出たものについては、全教職員で情報共有し、どのように学校に取り入れていくか検討していかなければならない。</p>	<p>自己評価および学校関係者評価で出た意見を学校運営でいかに活かしていくか検討し、全教職員で改善していけるよう取り組む。</p>
<p>・自己評価結果を公表しているか</p>	3	<p>評価結果を報告書に取りまとめている。</p>	<p>自己評価の情報及び、学校関係者評価で出た意見をHP等で公開していく必要がある。</p>	<p>自己評価及び学校関係者評価で出た意見を学校運営に取り入れる方法・環境を検討し、報告書にまとめHPで公開する。</p>

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価	現状の取組状況	課題	今後の改善方策
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	産学連携事業に参加し、組合、教育センター、試験研修センター等、学校関連、組合関連、行政関連との連携を行い協力して業界発展に努めている。	施設や資源を活用した社会貢献をもっと考え、学校外との連携を広げ、また深めつつ学校および業界の発展に積極的に貢献していくべきである。	製薬会社との連携で、施設での講習会開催に使用。 業界イベントに参加するなど学校と業界の繋がりを深めつつ美容業の活性、地域の活性に役立てる。